

No. 21

新年度特別号

令和6年
2024・4・1



日上市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日上市視聴覚センター
〒317-0073
日上市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

新年度あいさつ

館長 鈴木弘嗣

昨年は、長かったコロナ禍から日常が戻りつつある中で、「ひたちシネマ」を始め4年ぶりに関連イベントが再開でき、利用率も回復し明るさが戻ってきました。新たに令和6年度を迎えることができましたことに改めて感謝申し上げます。SNSとして画像や動画が情報交換される昨今、益々映像文化の大切さと共に活用能力が求められる年となりそうです。本年度もまた、皆様のご支援により使命を果たせるよう努めますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

資料寄贈 「お宝発見」

特集

アナログ文化の王様・蓄音機

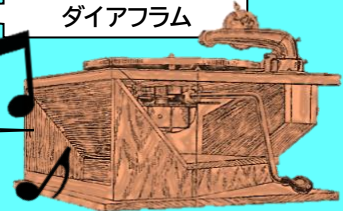
ちくおんき



トーンアーム

サウンドボックス
ダイアフラム

木製内蔵ホーン



急激な少子高齢社会が進行する中で話題になるのは「終活」と共に「断捨離」です。次々に捨てられていくモノたち。しかしながら、その人の人生と共に寄り添ってきたモノは、次にバトンタッチされることで「宝」モノになります。

どんなに科学技術が進歩し生成AIの時代になっても、アナログとしての人間の手わざにより製作されたモノは、部品一つ一つに作り手の思いや心がこもった「宝」モノです。

近年、当センターに視聴覚関係の「宝」モノが持ち込まれるようになってきました。本人が、時には 奥様が捨てるに忍びないとお持ちになります。2年前の令和4年度には、茨城大学教授島田裕之

先生（水戸市）から、記録映画監督井上実氏が使用していた 16mmフィルム編集機一式が寄贈されました。昨年度は今橋英樹さん（久慈町）から蓄音機2台と共にLPレコードが寄贈されました。

スマートフォン等によるデジタル社会が確実に進行する中で、どちらもアナログ社会の代表格として、その存在は大きなものがあります。

中でも蓄音機は、1877年トーマス・エジソン（1847-1931）が生み出した発明品です。蓄音機独特の臨場感あふれる音とともに人を魅了する、その音の秘密はどこにあるのでしょうか？

蓄音機は、オーディオ機器とは別物で、電気信号に変換せず、直接、空気を震わ

せて音を出す『楽器』と考えることができます。

音が出る仕組みは、いたってシンプル。まず、レコードに刻まれた溝から、針が小さな振動を拾い上げ、サウンドボックスのダイアフラム（振動板）で音を再生します。そこから波紋のように広がる振動がダイアフラム全体に均等に伝わっていきます。さらに、木製内蔵ホーンを通ることで音が拡大されます。材質の違いが密接に関連し、やわらかい木の音はやはりとても優美な音がします。

一台一台が個性的に響く蓄音機ですので、ぜひご来館いただき、アナログ文化の王様の音色をお楽しみください。

今月の
オススメ
小林

カサブランカ

CASABLANCA

監督：マイケル・カーティス

出演者：ハンフリー・ボガート、イングリッド・バーグマン
ポール・ヘンリッド、クロード・レイズ

第16回アカデミー賞にて作品賞・監督賞・脚色賞

公開：1942年
時間：102分
貸出番号：1200071

第2次世界大戦下の1941年、フランス領モロッコ・カサブランカを舞台に、男女の再会、ナチスからの逃亡などがサスペンスタッチで展開する。主演ハンフリー・ボガートによる名セリフ「君の瞳に乾杯」でも広く知られるラブロマンスの名作。

